

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—見上げてみる—

NO. 71



4月にお似合いのワードはいくつもありますね。「春」「スタート」「出会い」「友達」「入学入園」「新入生・新入社員」「初めまして」「よろしく申し上げます」「緊張」…まだまだ他にも出てくると思います。「期待と不安」もそのワードのひとつですね。“自分のこの力を試したい”というポジティブな人もいれば、“できなかつたらどうしよう”“わからなかつたらどうしよう”という不安が先行してしまう人もいると思います。どちらかと言えば、ネガティブな気持ちが緊張感を高めているかもしれません。でも、自分だけじゃないはず。みんながそう思っているものですよね。まずは、「みんなそうだよね！」のコミュニケーションから始めましょう。

あんずにも新人さんがやってきました。あんずが初めての集団生活の子、あんずと幼稚園や保育所との併用が始まる子、小学生になって放デイを利用し始める子が何人も。そして、ひとつ進級することで、少なからず環境が変わる子も多数います。まさに「期待と不安」の4月です。

ここで、あんずみたいに、一人ひとりに合わせた支援の場での過ごし方について確認、整理しておきたいと思います。

「言葉を話してほしい」「いろいろな物を食べてほしい」「トイレができるようになってほしい」「遊びを増やしてほしい」「お友達と遊べるようになってほしい」「お友達と一緒に過ごせるようになってほしい」等々、子どもへの思いや願いは、保護者の皆さん、みんなお持ちのことです。職員もそう願っています。その期待は、無意識のうちに、“そうなるにはどうしたらよいか。何をすればよいか”とゴール地点から見下ろして、子どもを引っ張り上げる思いになりがちです。少しできるようになってきたのに、「まだここが足りない」「こうできるようにしなくちゃね」と、減点法で子どもの姿を追ってしまいます。引っ張られる子どもは、いつも背伸びをしていなければならず…。背伸びもし過ぎると、呼吸が浅くなりますし、視野も狭くなります。ここ一番で力が出せません。そして何より、育ったことに純粋にOKを出してもらえないと、自信もつきません。自信はチャレンジの源ですよ。

子どもの育ちを追っていく上で大切な見方、それは、“育ちを下から見上げていく”視点です。下から見上げていけば、一つひとつ階段を昇っていく手応えを、子どもと一緒に感じるすることができます。本人の意欲やがんばる背中を支えることができ、少し息切れしても、ゆっくり立ち止まって深呼吸をする時間が作れます。そして、次の階段を子どもに合わせて、いくらでも細かく作っていくことができます。子どもの背中を見上げているので、振り返れば、今までの歩みを確かめることができます。小さな一歩にも大きなOKを出すことができます。同じ歩みでも、「まだここまで、もっと頑張れ」の評価なのか、「ここまで来たね。頑張ったね」のOKなのかで、今日からの元気が親子共々、支援者も含めて、まったく違って来るはず。コツコツ積み上げてきたものの強さはそこに現れてきます。



コツコツタイプじゃない方も、小さな一歩と一緒に見ていくのが悪いもんじゃないと思うはず。なぜって？ たくさんのOKで微笑みが増えてきますから。気持ちいいです。よね。(R4. 4) K